

すゑにし

Vol. 3

No. 4

1953. IV

倉敷昆虫同好会

目 次

作東産弊類目録	安原 瑞夫	Page 1
おとしがみ		2~6
作東にヒメアカネ産す	安原 瑞夫	2
モモスズメの燈火飛来時刻	広瀬 義躬	2
高梁にクビアカワシガメ	小堅 洋	2
ホシミスジ成虫の一食性	広瀬 義躬	3
キタテハと春の花	全 上	3
1952年度モンシロチョウ		
の没妻期観察メモ	全 上	4
テングチョウの習性2題	全 上	5
寄題誌紹介	6	おねがい 7
訂正	7	研究発表会開催 8
全国消息	7	編集後記 8

原 稿 募 集

毎月5日×切

“本誌の生命は、おとしがみにあり”

採集、観察の好期、珠玉の如き短編多数御寄世下さい。

多数の御投稿は、月刊！ザトパック的独走を続ける本誌の発行を円滑にします。

作東産蟬類目録

安東瑞夫

当地方は中国山脉を後に控えている関係上、山地性の種類も産し、従つて種類数に於いても少なくない。

ここに現存の標本を確認したものを簡単に纏めて報告しておく
尚御示下さった逕信順代にお礼申し上げます。

- 1) *Platypleura kaempferi* FABRICIUS
ニイニゼミ
- 2) *Graptopsaltria nigrofuscata* MOTSCHULSKY
アブラゼミ
- 3) *Tibicen japonicus* KATO エゾゼミ
後山、那岐山(中国山脉筋)
- 4) *T. ——— bilamatus* MOTSCHULSKY コエゾゼミ
後山(逕信代發示)
- 5) *Cryptotympana japonensis* KATO クマゼミ
各地に産するが稀
- 6) *Terpsilosia vacua* OLIVIER ヲウゼミ
- 7) *T. nigricosta* MOTSCHULSKY エゾヲウゼミ
後山(6月下旬より出現)
- 8) *Tanna japonensis* DISTANT ヒグラシ
- 9) *Oncotympana maculaticollis* MOTSCHULSKY
ミンミンゼミ
- 10) *Meimuna opalifera* WALKER ツクツクホウシ
普遍的に分布しない。
- 11) *Melampsalta radiator* UHLER ナツチゼミ
8月下旬より出現、松林に多い。

(筆者住所： 岡山市浜531-1)

おとしらみ 

作東に

ヒメアカネ産す

本種 *Sympetrum parvulum* BARTENEV は本州、九州の各地に局部的に産し、従来稀なものと考へられていたが、その後本州の各地で発見されて来ている。

当地でも1950年8月23日勝田郡勝田町内にて1羽を採集し確実に産することが誤った。尚この標本は名古屋在住の松井一郎代の手を経て奥村定一氏が所蔵しておられる。

現在筆者は京都産（金井代採品）と名古屋産（松井代採品）の本種を所持しているが、両者に比してやや大型であり、尾部附属器も形態を異にする。

—安東瑞夫—

モ、スズメの

燈火飛来時刻

吉森甫夫代は新昆虫 Vol. 4
No. 2 / オムシパンに於いて本種

の燈火飛来時刻を午前2時から4時迄の向と報告されたが、私は昨年（1952）8月26日、倉敷市任古町の太原農業研究所作物害虫研究室にて午後8～9時頃迄の本種が燈火に飛来したのを観察した。このが一例であるので例外かも知れないが参考迄に一筆記しておく次第です。

—広瀬義躬—

高粱に

クビアカサシガメ

Reduvius hainanensis SCOTT は体長15mm内外、体は黒色で前胸背の後半及び半翅の基部は暗赤色を呈するサシガメであつて、本州、四国及び九州の山地に産する。筆者は1952年7月6日岡山県上房郡高梁町の臥牛山に採集と試みた際、本種1個体を採集しているのを報告しておく。本地方に於ても餘り豊富しないものようである。

—小堅 洋—

おとしぶみ

ホシミスジ

成虫の一食性

Neptis 属成虫の食性としては花蜜、牛馬糞等が知られているが青雲孝昭氏は1948年7月12日倉敷市南町に於いて本種が桃の蜜を吸っている、果液を吸収しているのを見察している、果液吸域中の本種はほかほか大股に近づいても逃げなかった虫である。本観察の結果、報告には場所氏が新尾虫の「4 No.」ムラベツ「アンズ干に飛来せる蝶類」の中で Neptis 属の「本種及オオミスジを記述している位で、他に本種を含む Neptis 属成虫の食性として観察結果を載じたものはない種であるので、ここに記しておく、資料を提供された青雲氏に敬意を表す。

— 広瀬義躬 —

キタテハと

春の花

キタテハは同じタテハチョウ科の

内でもルリタテハやヒオドシナヨウなどとはずると、よく花に集る方であるがそれでも夏季や秋季の本種にこれを見ることは少ない。

しかし越冬後の本種は他の各種タテハナヨウ(越冬、成虫)種に見られる通性として、その終極各種の花上に見受けることがしばしばである(今春、1953)観察した本種の訪れた花を記すと下記の如くである。

アブラナ(黄)	20
タンポポ(黄)	2
ダイコン(白)	1
ソラマメ(紫白)	1

右に記した数字は訪花度数を示すので、正確な観察数を記録し得なかつたので、ソラマメを1として全体の訪花の度合を示すために記したものである。()内は花色を示す。

これで見るとおしアブラナへの訪花が圧倒的である。アブラナとタンポポは新村太郎氏の「蝶の生活」にも本種の訪花種として記されている。

— 広瀬義躬 —

おとしがみ ~~おとしがみ~~

「1952年度モンシロチョウの没姿期観察メモ」

倉敷を中心とする一帯のモンシロチョウの初発日については過去数年前からの観察により略々判明したところであるが、終発日(没姿期)については、不明であるので昨年11月以来私が注意してメモしておいたものをここに記してみたいと思う。なにぶん一個人の観察記録であり、これをもって全体を見渡すことは困難なので考察などは加えないようにする。メモは11月上旬よりだったが、大後美保*

*・鈴木雄次画氏の著「日本生虫季節論」(1947)によれば岡山での観測記録は掲載されにみならずグラフによると本地方は大体11月10日の線が通っているし、また新村玄朗氏の著「蝶の生活」(1948)にはどの文献から引用されたのかわからないが、岡山は平年値月日として11月7日とばかり記されている、そこで11月10日以後の記録をまとめた次に記すこととした。

月	日	天候	気温	風力	個数	場	所
11	10	晴後曇	通常	1	1	岡山市綱浜	
	11	曇	低し	1~2	1	全	
	15	曇	低し	1	1	全	
	16	快晴	高し	0~1	20	倉敷市田之上 ~ 酒津	
	17	晴時々曇	通常	2	2	岡山市綱浜	
	22	快晴	高し	0~1	2	全	
	25	快晴	高し	0~1	2	全	
	29	快晴	通常	2	1	全	
	30	快晴	高し	0~1	1	倉敷市田之上	
12	1	晴時々曇	高し	1~2	1	岡山市綱浜	
					2	岡山市門田	

おとしがみ ~~ツルツルツルツル~~

この表でわかるように昨年は11月下旬頃の野犬襲に息を止めてか遂に11月一杯その姿を見る事が出来ぬ終発日は12月1日であった。しかし12月にその姿を見ることは稀ではないらしく青野等昭代は1948年2月5日モンシロチョウ目撃の記録を言しておられる。

このメモや岡山と近接地の記録(広島, 11, 27-統計年報11年, 松山, 11, 18-統計年報12年)より見れば岡山地方の没姿期はもう少しは遅くなるのではないかと思う。仮りに3月10日を当地の平年初発日とし11月15日を平年終発日として本種の1年間の活動日数を求めれば245日に及ぶ。なお当地に於ける本種没姿期の記録はほとんどないが、1948年は先に記した通り2月5日、1947年は同じく青野氏の観察で11月23日となっている。

いずれにしても今後等人数での採回調査が行われることが望ましい。なお表中に於ける気温は正確に測定出来ず、大体の感じによったので余り参考にならない。最後に

に資料を提供された青野、小笠原氏に謝意を表して筆を置く。

— 広瀬義躬 —
テングチョウの
習性2題

1) 南内動作: 新昆虫V. L. 5 No. 6ムラペン p. 34に教井郁二氏が「テングチョウの一習性」と題して「本種が静止中南内動作を行なう」と述べて「日本の蝶」p. 59の誤りを指摘されているが筆者も同様の観察をしたことを記憶しているのを記してみたい。

A) 5/IV. '52 於、清音村 黒田: 山道の石上に本種1頭が静止し南内動作を保ったのを認めた。

B). 23/IX. '51 於、全上: 教頭がクマギの樹上附近を飛翔葉上(下から見上げる様な所)に早く静止して翅の南内動作を行なっているのを観察した。

2) 土地占有性: 本種は又タテチョウ科の或る一群のものに思われる土地占有習性があり奥隠しているものと思われる。

以下観察例

A) 22/VII.'51 於、広島
県道後山：登山道に於いて本種が
地上或いは枯草上に飛来、静止、
追いまわしてもすぐ元の位置に
戻って静止状態を継続、なおこの
向、他の虫は侵入して来なかった

ので侵入者の追飛は観察出来なかつた。

B) その他 29/X.'50
於、黒田、5/IV.'52 於、黒田
等の観察記録を持つ。

— 広瀬義躬 —

三寄贈誌紹介三

1) 大和郡山草木虫奥の会々報

オ5巻オ29-30号、オ6巻オ31号

(XII-1952. 1-1953) 奈良・郡山、同会発行

主 内 容

水田久雄：郡山町の蝶亜目（8科60種）

今本哲男：奈良県の天牛相オ3報一部山町の天牛相（39種）

田中重和：大峯山の蝶類 以上29-30号

今立源太良、他：ルーミス日記抄

池 良彦：五年間の歩み（昭和23年3月発足以来5年間の回顧

とその業績の一部の抄録・解説）

他奈良県のフオーナ報告多数 以上31号

2) INSECTS MAGAZINE

オ20号（II-1953） 東京・太田、少年昆虫会発行

等（今年の計画希望など）の特集記事、談話会記事、伊吉保・高水山・多摩川・奥多摩・日光等各地の採集記を献す。（今回はスペースの関係で充分御紹介出来ませんでした。不悉ず—文責Y.H—）

証

◇オ2巻12号 1頁印刷の際、ローラーに凹凸があったため、
全般的に不明瞭ですが、特に松井俊公氏の下記報告中 肝
要の産地、採集日等不明瞭ですので改めて次に記します。

なお、他の諸氏の内御自身の報告中に於いて印刷不明瞭の箇所もある
かと写しますが、特別御指摘のない限り、一つ一つ訂正するのは面倒な
りで訂正致しませんから御了承下さい。寄稿された諸氏及会員の皆様
にこの機会にお詫びしておきます。江崎先生からも御注意をいただき、
感謝申し上げます。

Vol 2 No 12 p.141 「キバリハムシの新産地」文中「1952年
8月17日兵庫県宍粟郡三河村船越、船越山で1頭採集す。」同 p.143
「タカサゴシロカミキリ」文中「兵庫県宍粟郡安師村塩堅に於いても1
952年7月18日に1頭だけハンノキより採集」—(糸編 集音部)

◇Vol. 2 No 12 p. 143 右上より18行「本種の」を消す。—(〆)

◇Vol. 3 No. 2 p. 14の私の書いたE.E.S.S.M.の悲劇」の文中のアシ
ナカクモはアシタカクモの誤りにつき訂正します。御教示いただいた小
野洋氏に深謝致します。—(広 津良)

会員消息

◇11. 山川東平氏—本年4月東京都南多摩郡鶴
山村鶴山小学校に御栄転された。住所宛名は同小学
校内宛てよ。会報から又虫屋が一人減ったのは淋しい。

◇5. 近藤光宏氏—倉敷工業高等学校(旧老松高校)を本年3月卒業

◇8. 友室良一氏—倉敷番陽高等学校を本年3月卒業

◇43. 能勢幸美子さん—津山東中学校卒業 津山西高等学校入学。

なおその他2・3人の消息及新入会員も2・3あるようですが余白な
く次号に廻します。

おねがい

私、現在本県の蝶相の調査の一助にと「岡山県産
蝶類の分布に関する文献目録」なるものを作製して
おります。しかしこの種の文献は非常に少なく、他県のそれと比べると
(次頁へ→)

